

ブラック・スワン食糧保障

ブラックスワン食糧保障メールマガジン 2023年12月31日配信号

皆様、今年も大変お世話になりました。

非常に暖かい穏やかな年末ですね、私はこのシーズンはよくスキーに行くのですが、1月は北海道でもかなり厳しく、まともに滑れるのは二セコのみとなっています。このような事を言っていると、決まって温暖化の話が出ますが、皆さんどのようにお考えでしょうか？

私は以前からこの件について疑問を持っていましたが、さしたる科学的根拠もないのに、世の中はCO2削減が既定路線になってしまっている様です。

それでも害が無ければ良いのですが、武田邦彦教授なども、このままCO2削減を進めようと、むしろ環境破壊になってしまおうとおっしゃっています。

この件について、私が30年来師事している藤井先生と、東大名誉教授の渡辺正さんが、非常に面白い対談をされていました。

ちょっと長くなりますが、以下は私が要点を抜粋してまとめたものになります。

「科学者たちの温暖化戦争」告発者が明かす大論争の最前線

渡辺 正 藤井 厳喜

私は97年の京都議定書のとりまとめに向けて、96年までに11年間、環境に関する研究者約800人を束ねる事務局の長をやっておりました。

97年に地球温暖化の話題が盛り上がったが、そこにはとんでもない見当違いがある事に気が付き、警鐘を鳴らす活動を始めた。

武田邦彦教授をはじめとする十数人の著名な学者や、キャノン・グローバルの杉山氏は、リサイクルの矛盾や、地球温暖化に反対する意見を表明しているが、その他数百人の学者たちは、総額五兆円／年、一日150億にもものぼる、湯水のように湧き出てくる研究予算にぶらさがり、「ぶらさがり健康法」で生きている。

渡辺先生は光合成の専門家で、「CO2が増えて悪いことなんか何もない」とおっしゃっています。

境目になる重要な年は1988年で、それまでは多くの学者が「地球は寒冷化する」と騒いでいた。

気象学者の根本順吉という男が、それまで「寒冷化」といっていたのに、「温暖化」にガラッと主旨替えしたことがきっかけである。なぜかNASAも1988年から大騒ぎしだした。

このころ高度成長で問題になっていた公害が様々な技術で解決され、水や空気、土がきれいになってしまい、環境科学者や、これで飯を食べていた人々は失業寸前であった。

彼らにとって「地球温暖化問題」は恵の雨となった。

CO2は確かに増えている。しかしそもそも大気中の0.04%で、以前は0.03%であったということに過ぎない。

温室効果という話があるが、もしそうであれば、野菜や果物が増産できる。

ビニールハウスは野菜や果物を多く育てるために、あえてCO2濃度を上げており、濃度を上げれば育ち方が全然違う。

例えば0.04%から倍の0.08%（800PPM）に濃度を上げると、収穫量は物によって異なるが、20%~80%増える。

そもそもCO2が増えて地球が温暖化しているのではなく、地球が温暖化して海水温が上昇し、海水に溶けているCO2が出てきていると考える方が妥当である。

地球の温暖化については、地球の公転軌道や太陽の輝度、黒点数の減少などが考えられるが、温暖化といっても30年間で0.3度しか上がっていない。1850年からの150年間では1℃変

化しているが、 -0.8 度から $+0.2$ 度の 1°C である。

テレビなどでは砂漠化している映像を強調しているが、衛星から観測したデータでは、緑地は十数パーセント増えている。

NHKは北極の氷が溶けて落ちていく映像を何度も使っているが、これはかなり悪質な例である。

この落ちてくる所の反対側ではどんどん氷ができており、反対側に押し出された氷が落ちていただけである。

以前ここは単なる観光スポットであった。

カーボンフリーとか馬鹿な事を言っている人がいるが、人間は炭素に依存しており、体の 23% は炭素なので、本当にやると死んでしまう。

CO_2 を使った光合成のみが、地球上の本当の意味での唯一の生産であり、その植物が生産した物質を食べた動物がさらに食物連鎖で食べられて大型化したり、藻や植物プランクトンを食べた動物プランクトンを魚が食べたりと、これらはすべて消費である。

1億年前や2億年前は、今よりも CO_2 濃度が $4\sim 5$ 倍高かった。逆に植物は 185PPM 迄であればなんとか生きられるが、 150PPM になってしまうとあらゆる植物が死に絶え、動物も絶滅する。

東京はこの百年で気温が 3°C も上がったといっているが、温度計の設置場所は大手町の気象庁にある1個のみのデータであり、大手町はここ百年でどんどんビルが建ち、風通しが悪くなり、車も大量に走るようになった。

エアコンも大量に普及し、人も何十万人と行き交う様になっている。（渡辺教授の計算では、風が全くない場合、朝6時～夜6時の12時間で、車が1日15万台通ると 5°C 、電力消費で更に 5°C 普通に上がる）

「高コストだが CO_2 が減るので...」といって風力やソーラーを使っているが、高コストの物は必ず根っこの生産の所でエネルギーを大量に使っているので、 CO_2 がたくさん出ているはず。

EVでもソーラーでも作る所から廃棄する所までを考えたら、「 CO_2 に関しては今の自動車と何も変わらないか、作らない方がましというレポートも出ている。

特にEVの電池に関しては廃棄に関しての環境負荷がかなり高い。

ターニングポイントになった1988年というのはソ連の崩壊が明らかになってきた年でもあって、挫折した共産主義者が国連などの国際機関に入り込んで、環境問題などをやりだした。

2009～11年に「クライメート・ゲート事件」として科学者たちが地球温暖化を捏造したという大量のメールなどの証拠が出たにもかかわらず、SDGsとかが出てきて、地球温暖化はもはやカルト宗教の様になってきているが、共産主義運動と全く同じである。

次はLGBTなんかもこうなっていくのではないかな。

いかがでしたでしょうか？

これはちょっと前の対談なのですが、両氏の予想通り、今年はLGBT法案も自民党内でも反対多数にもかかわらず強行採決され、着々と予算が成立し、利権にぶら下がろうという人々が増えているようです。

ただこれをきっかけに百田尚樹氏らが日本保守党を立ち上げ、一瞬にして党員が数万になるなど、参政党に続き、いよいよこれは何とかしなければと立ち上がる人々も増えているようです。

来年は彼らが活躍し、ちょっとはましな世の中になればいいですね。

皆様、良いお年をお迎えください。

ブラックスワン食糧保障

草間 弘人